

発行日 平成 23 年 4 月 5 日

No 1 の続きの報告する予定であったが、3 月 22 日以降の日程を飛び越えて第 3 次の被災地入りの報告である。(3 月 22 日、23 日は別途、報告する予定)

今回は 4 月 3 日、4 日に行った「アレルギー相談 110 番」のニーズ調査を受けて盛岡、仙台、福島に入るバイクボランティアの皆さんと一緒に「お届け隊」として被災地入りすることが目的となる予定であった。しかし、2 日間で被災地の仙台、盛岡も含めて「110 番」の結果は 10 件に満たず、さらにニーズ把握の必要性があり、引き続き避難所などへ「アレルギーでお困りの方へ」のポスター張りを続けることとした。そこで、これまで支援拠点ができている福島県に 3 人のバイクボランティアの方と名古屋からの運転ボランティア・宮田さん（またしても、車がないので車も提供していただいた。感謝！感謝！）と栗木の 4 グループがいわき市と郡山市周辺の状況を把握することとなった。

朝、9 時半集合の予定が、前日注文した果物を購入する店に着くのに手間取り、事務所への到着がぎりぎりとなり、すでに宮田さんとボランティアの方が待っていた。

前日、ボランティアの方に用意していただいた福島など方面別の荷を急いで車に載せる。

荷造りが終わる頃、フリーマーケットの売り上げを持った大阪の Y さんが K テレビ局と一緒に駆けつけてくれた。多くの方のさまざまな激励が休みなしの支援活動を支え、疲れを吹き飛ばしてくれている。

10 時半、予定より少し早く出発。今回は新潟経由ではなく、中央自動車道から上信越自動車道、開通したばかりの北関東自動車道を経て東北自動車道に入った。道に詳しい宮田さんは難なく走り続け、第 3 次のスタートも順調であった。

被災を受け操業が停止している永谷園の茨城工場を先に激励に行く予定であったが、操業再開をめざした準備のため、職員の方が 16 時半までしかいないとのことで、やむなく郡山に直行することにした。

21 時到着予定であったが、はるかに早く 19 時半には郡山市の新たな拠点になっていただく安藤さんのところに着く。東京のバイクボランティア浅川さんがすでに到着して待ってくれていた。荷おろしをする。(写真を撮るのを忘れ大失敗！)

浅川さんはお子さんがやはり、ずいぶん前ではあるが子どものころアレルギーで苦労され、ご自身も背中などにアトピーがあるとのこと。6 日の行動を簡単に打合せし、安藤さんともそれぞれ自己紹介し、簡単な打合せ。

安藤さんは自然食品のお店の方で、遅い時間というのに、我々への温かいうどんや果物などのおもてなし、大変ありがたく、しかし、被災地でご迷惑をおかけすることへの申し訳なさで一杯であった。

打合せが終わって、浅川さんに急遽確保していただいた宿泊のホテルに案内をしていただく。ビックリするような安い料金で、まだまだ寒い夜を暖かいで部屋で 1 日目が終わる。感謝をこめて報告書も書き上げることができた。



運転ボランティア宮田さん（右）と浅川さん